

# 研究トピックス

## 農業環境技術研究所が所蔵する昆虫タイプ標本の画像情報を公開

農業環境インベントリーセンター 中谷 至伸 安田 耕司 吉松 慎一 上田 義治

### はじめに

農業環境技術研究所では、推定で120万点の昆虫標本が保管されており、このうち500点あまりがタイプ標本です。タイプ標本とは種名を決定する際の基準となる標本で、通常新種の生物が発表される際に指定され、生物1種につき1点しか存在しない貴重な標本です。動物の学名の取り扱いを定めた国際動物命名規約では、タイプ標本は公的な機関に収めること、新種発表時に収蔵機関を明記することなどが推奨されています。しかし、実際には所在が明記されていない場合があり、また明記してあっても所在不明となったタイプ標本が多く存在します。当研究所では所蔵しているタイプ標本をweb上に公開することで、外部の研究者がタイプ標本に関する情報を容易に入手できるようにしたいと考えました。

### 農業環境技術研究所の昆虫タイプ標本

農業環境技術研究所でこれまでにその所蔵が確認され、情報が整理されている昆虫タイプ標本の数は568点にのぼります(図1)。分類群別では鞘翅目(コウチュウ目)、双翅目(ハエ目)、膜翅目(ハチ目)の順に多く所蔵しています(表1)。これらは歴代の研究者が新種として発表したもののほかに、外部の研究者が当研究所の一般標本の中から新種として発見したもの、また、保管を依頼されたものなどが含まれます。当研究所のタイプ標本は一部を除き、耐震・耐火構造の専用標本室にて保管されています。

### タイプ標本画像の公開

タイプ標本の観察が必要になるのは、類似した種が複数存在するため、ある種名がどの種に対応するかわからない場合など、分類学的に問題があるときです。そのようなとき研究者はタイプ標本の所在を調べ、直接所蔵機関を訪問するか、貴重なタイプ標本の郵送などを依頼する必要があります。



図1 オサムシ科タイプ標本

表1 所蔵タイプ標本内訳

	画像公開 済み	データのみ 公開	計
総翅目	18		18
半翅目	59		59
脈翅目	10		10
鞘翅目	225	24	249
毛翅目	3		3
鱗翅目	38		38
双翅目	100	8	108
膜翅目	82	1	83
	535	33	568

そのため、タイプ標本の検討には多くの時間や経費が必要となります。また先述のとおり、現在ではタイプ標本の保管場所は発表論文に明記することが推奨されていますが、古い時代に新種として発表されたものの中には所蔵機関が明記されていないことも多く、所在確認が事実上不可能なこともあります。タイプ標本の画像などがweb上で公開されれば、インターネットを介して外部からの

タイプ標本の形態情報などを容易に確認できるようになり、分類学上の様々な問題の迅速な解決に役立つものと期待されます。

以上のことから、当研究所では所蔵するタイプ標本568点について全体像、頭部、翅など、分類学上重要な形質を多く含む部位の画像とともに、標本の採集地、採集年月日、採集者といった採集データおよび新種記載文献情報をタイプ標本データベースとしてweb公開しました (<http://www.niaes.affrc.go.jp/inventry/insect/inssys/typelst.htm>)。なお、標本を貸出中の33点については画像を取得できなかったことから画像以外の標本情報のみ公開しています。本データベースでは昆虫の目または科ごとに一覧表があり(図2)、そこから目的の種を選べばそのタイプ標本画像および情報が閲覧できます(図3)。なお、鞘翅目のオサムシ科については所蔵点数が200点近くと多いことから属名および種小名によって検索可能です。このデータベースは総合的な画像データベースとして公開したのものとしては国内最大です。

### おわりに

当研究所の昆虫標本館に所蔵されている推定120万点の標本の中にはいまだ相当数の未確認タイプ標本が発見されないまま埋もれているものと思われる。今後はこれらを確認して登録し、順次公開して行きたいと考えています。

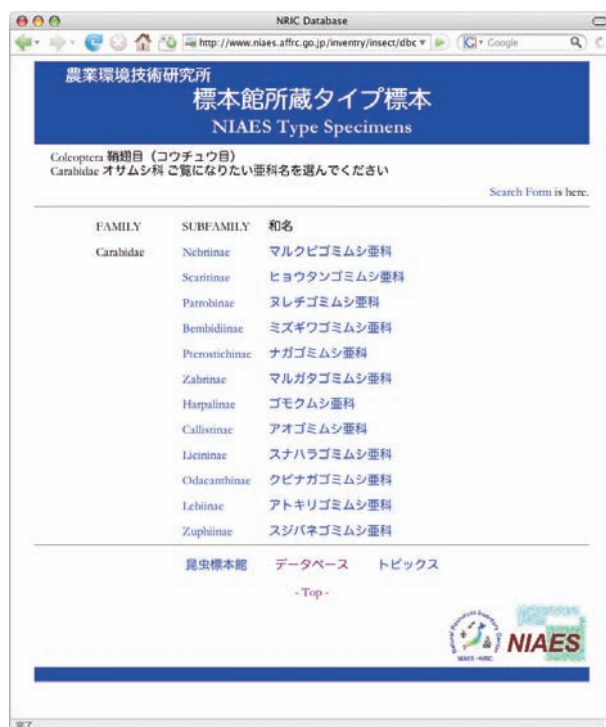


図2 タイプ標本一覧表の一部

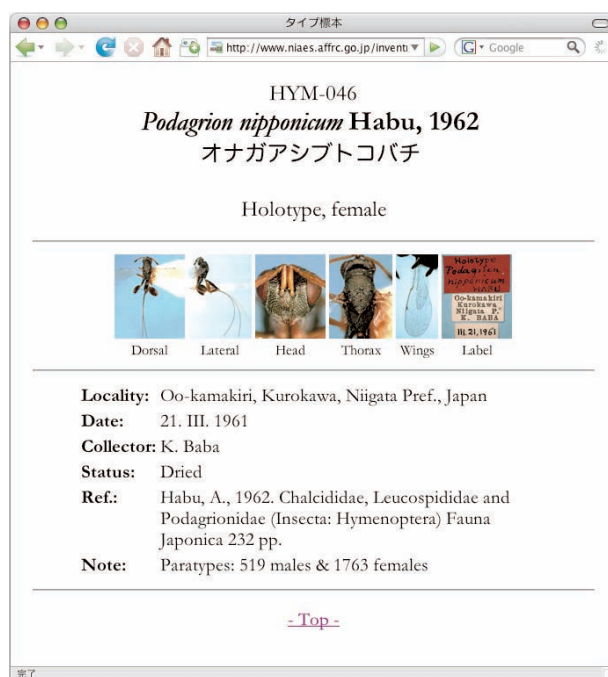


図3 タイプ標本情報の一例